

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

かけはし

地域コーディネーターだより

2017. 2. 8

NO. 6

KTふれあいの輪

1月18日、葛川市民センターにおいて「KTふれあいの輪」が行われました。自分たちの住む葛川（**KaTsuragawa**）と久多（**KuTa**）から名付けられた「KTふれあいの輪」も今年で4年目です。中学校の生徒会を中心に、企画・運営が行われてきましたが、小中学生全員それぞれの学年に応じて当日に向けての準備にも熱が入りました。たくさんの地域の方々にも来ていただき、一日を通じて地域の方々とふれ合いながら、自分たちの地域について考えることができました。



をむくとむきやすいよ」「半分に切ってからこうやって・・・」などアドバイスをもらいながら子どもたちは自分たちの手で作業を進めます。2～4年生は昨年も経験しているので、時計を見ながら見通しを持って手際よく作業を進めます。はじめ

1階の調理室では、朝早くから小学校1～4年生が健康推進協議会の方々といっしょに昼食のカレー作りを始めました。事前に健康推進協議会の方々にカレー作りの手順やコツなどを教えていただいていたので、身支度を済ませた子どもたちは、さっそく調理に取りかかりました。「こうやって皮



ての1年生もていねいに皮をむき、包丁を持って慎重に野菜を切ります。野菜やお肉をいためて煮込みに入ると、いいにおいがただよってきました。煮込んでいる間も、手を休めることなく灰汁をすくったり、お皿やスプーンを洗ったりしました。2階の会場にたくさんの地域の方々が集まってこられた頃には、予定時刻よりはるかに早く、80食分のカレーが完成していました。開会式では、「今日のメニューはカレーです。がんばって作りました」とみんなに紹介をしました。



2階では、小学校5・6年生と中学生の発表が行われました。

小学校5・6年生の発表は「地域のためにできること」。それぞれが考えた物を実際に作ってみたことを発表しました。

☆杉の葉クッキー

葛川や久多にたくさんある杉の木。この杉の木の葉を形どった「杉の葉クッキー」を焼いてみました。このクッキーを食べて、自然の豊かさを知ってもらいたい。そしてこのような名物ができて地域が栄えてほしいなあ。

☆かっざる・くたざるクッキー

4年前の「KTふれあいの輪」から誕生した葛川と久多のゆるキャラの「かっざる」と「くたざる」。このゆるキャラをクッキーに焼きました。葛川や久多の人口が少しでも増えてにぎやかになってほしいという願いをこめて。

☆アマゴ焼き

葛川や久多の川にたくさん泳いでいる模様のきれいなアマゴ。このアマゴなどをたくさんの人に釣りに来てほしいという思いから、アマゴの形をしたパンを焼きました。これが名物になって地域に役立つといいなあ。

☆スタンプラリー

葛川や久多にはいろいろな店があり、景色もすばらしい。いろいろな場所にスタンプをおいてスタンプラリーをしながら地域をめぐってほしいなあ。「かつぎる」や「くたぎる」のゆるキャラや「ようこそ」の文字をスタンプに彫り、地図や台紙も作りました。

☆カレンダー

葛川や久多の写真をのせた壁掛けカレンダー。「こんな雪景色見れるんだ〜。じゃあ冬にも行ってみよう」と思ってくれる人がいたらいいなあ。「太鼓廻し」や「花笠踊り」などの地域の伝統的なお祭りや行事を書きこんだ卓上カレンダー。これを見てたくさんの人がお祭りに来て喜んでくれるといいなあ。

クッキーを試食してもらったり、でき上がった物を見ていただいたりしました。そこには一人ひとりの地域に対する思いや願いがたくさんこもっていました。

また、写真家の宮田さんにアドバイスをいただきながら撮った葛川や久多の写真の入った「おすすめスポット」のパンフレットも完成しました。



中学1年生と3年生の発表は「森林学習」。

小中学生全員で行っている「学校林活動」。アシビ谷の学校林に小さな苗木を植えてから6年。森林組合の方々にお世話になりながら、毎年3回の活動を行っています。鹿に食べられないような、雪に負けないような対策を考えていただきながら、いろいろな作業を教えていただいています。あんなに小さかった苗木も今では背丈がぐんと伸び、幹も太くなり、しっかりと枝葉をはって、山に入っただけでその生長ぶりに驚きの声をあげてしまいます。今ではもうすっかり「森」になりました。年に3回の活動を通して、木の生長を目の当たりにし、自然の命を

感じながら、木を守り育てていく大切さを学んでいます。

中学1年生の体験した「間伐」。実際に山に入り、1本の木を切り倒します。なかなか倒すことができませんでしたが、木を切り倒した後に差し込んだ明るい日差しに「間伐」の意味を感じました。皮をはがして切った丸太を使って木のベンチを作りました。木のベンチにはぬくもりがありました。山の木がますます身近に感じられました。

中学3年生は「木工ろくろ」を体験。昔、葛川にはたくさんの「木地師」の方がお椀やお盆などを木から作っておられました。まわりの自然を利用した産業で村が栄えていた話を聞き、この地域と木の結びつきを改めて強く感じました。実際に、「木工ろくろ」と「ろくろカンナ」を使ってお皿を作ってみました。木をけずるのはとても力がいりましたが、最後にぞうきんでピカピカに磨き上げて木のお皿を作り上げることができました。

私たちのまわりにたくさんある山の木々。この木と関わった体験は貴重なもので、木とわたしたちの生活の強い結びつきを感じることができました。

中学2年生は「葛川と久多のパンフレット」作りについて発表しました。昨年の「KT ふれあいの輪」を受けて、地域のために私たちにできることを考えて制作にとりかかったパンフレット作り。葛川や久多にある寺社やお店を紹介しています。このパンフレットのページを追いながら、テレビ番組風の構成で発表しました。実際に葛川や久多の食べ物のお店や特産品を売るお店に行ってインタビューも行いました。このパンフレットを見て、たくさんの人たちに葛川や久多のことを知ってほしい。そして、たくさんの人がこの地域を訪れて地域が活気づいてほしいという願いをこめて作られたこのパンフレット。自分たちの足でこの地域をめぐり、多くの方々と関わりを持ちながら完成させることができました。このパンフレットのページが、たくさんの人の手でめくられていく日も遠くはないでしょう。

午前の部の最後をしめくくるのは、「KT カルタ大会」。4つのグループに分かれてカルタ大会が始まりました。読み札に書かれているのは、いずれも葛川や久多にちなんだ文章。絵札をとること以上に、読み札に何が書かれているのかがとても楽しみでした。大いに盛り上がり、すっかり打ち解け、なごやかな雰囲気のまま昼食へ。



小学校1～4年生が、カレーを配膳してみんなに配ります。「カレーが完成しました。名付けて『KT カレー』です。味わってください」と小学生。みなさんに



おいしく食べてほしいという思いがたっぷり入ったカレーは、パクパクと食べていただき、食べ始めて5分後にはもうおかわりの列ができていました。

「がんばって作ったカレーはおいしく食べてもらえたかな？」小学校1～4年生がインタビューに行きました。「おいしかった!」「もうおなかパンパン」「ありがとう!」というお言葉をいただき大喜びでした。みなさんにおいしく食べていただいた後で、やっと1～4年生も自分たちの作ったカレーをいただきました。

ずいぶんおなががへっているのをがまんしていましたが、一仕事終わってからのカレーはおいしさ倍増でした。これで、終わりではありません。次は洗い物と後片付け、そうじです。最後までしっかりと仕事をやりとげることができました。健康推進協議会の方々からも、「ほんとうに、てきぱきと動いてくれて、後片付けまでしっかりできてよかったよ」とお言葉をいただきました。

ずいぶんおなががへっているのをがまんしていましたが、一仕事終わってからのカレーはおいしさ倍増でした。これで、終わりではありません。次は洗い物と後片付け、そうじです。最後までしっかりと仕事をやりとげることができました。健康推進協議会の方々からも、「ほんとうに、てきぱきと動いてくれて、後片付けまでしっかりできてよかったよ」とお言葉をいただきました。

2階の会場の午後の部は「懇話会」です。小学校5・6年生、中学生そして地域の方々が4つのグループに分かれて話し合いを持ちました。テーマは「葛川・久多の未来像を実現していくために、どのような取り組みができるか考えよう」でした。

その前段として、中学校生徒会による「20年後の葛川・久多」のコント劇が披露されました。20年後、中学校の校舎が7階建てになっている、梅ノ木の橋の下を電車が走る、木戸口にできたファーストフードハンバーガーショップで名物鯖寿司バーガーが人気、など、発展し活性化された地域が舞台となっていました。何でも、山の木が大量に売れたことによる経済効果だとか。このコント劇の中には、生徒たちの未来に対する願いがこめられました。



そして、はじめたグループ討議。「葛川や久多がこんなふうになってほしい」という願いをもとに自分たちのできることや、やってみたらいいと思うことを出し合いました。各グループでは、自分の思いや考えなどが活発に出されました。

- * 葛川や久多のファンをふやす
- * 地域の良いところをアピールする
- * 高校になってから良さを伝える
- * 「KT ふれあいの輪」のホームページを作る
- * SNS で地域のよさを伝える
- * 地域の劇を映画化して世界中に発信する
- * 巨大かまくらを作ってインターネットで広める
- * 6年生が作ったような地域のカレンダーを見てもらう
- * 学校のいいところを紹介・発信 (テレビなどで)
- * 特徴的な学校をアピールする



*名物や木や水などの資源を使った特産品を作って、地域の外にどんどん出していく

*道の駅を作って名物を売る

*アマゴ祭りや雪祭りなどのイベントをたくさん行う

*住む場所・働く場所をつくる

*介護施設をつくる（長生きしてほしい）

*コンビニをつくる

*雪かきボランティアをつくって活動する

*葛川インストラクターが地域のことを教える

*無料バスを運行させる

*空き家をなくす（この風景をくずさないよう）



このような具体的な意見がたくさん出されました。いずれも、「葛川や久多に住む人が増えてほしい」「たくさんの人が来てにぎわってほしい」「住みやすい地域になってほしい」「活気のある元気な地域になってほしい」などの思いがこめられていると思います。今すぐできそうなこと、時間をかけて考えなければならないこと、様々ですが、このような意見を持ち交流することがまず第一歩。身近なところ、自分にできるところからはじめてみたいです。

4年目を迎えた「KTふれあいの輪」。「KT」と言うだけで通じるぐらい、地域の中にも浸透してきたこの集い。今年度は、新たなプログラムも加わり中身も充実しました。地域と大きく関わった発表、地域のことを真剣に考える懇話会、地域の方々との交流しながらの料理作りなど、「葛川」「久多」という地域満載の「KTふれあいの輪」となりました。

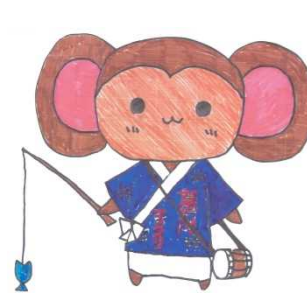
お忙しい中、参加していただいた地域の皆様方、朝早くからご指導いただいた健康推進協議会の方々、準備等お手伝いいただいた葛川市民センターの皆様方、ありがとうございました。

今年度も、葛川小中学校は地域の方々からいろいろお世話になりました。お話を聞かせていただいたり、体験しながら技を学ばせていただいたり、いっしょに活動しながら楽しくふれ合ったりすることができました。その中で、地域を肌で感じ、人々や自然との関わり大切さを学ぶことができました。また、小中学生が地域の中に出向く機会も多くなり、実際に自分たちの足で歩き、目で見ることにより、地域を身近に感じることができるようになりました。

今後この地域を担っていく小中学生たちが、地域の住民の一人として、地域の未来を考えながら動き始めようとしています。地域の方々から多くのことを学ばせていただきながら、自分たちが地域のために何かやってみようという思いがふくらみつつあります。

「地域に向けての発信」。

今後、地域の中の葛川小中学校として、地域の皆様方との関わりを大切にしていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。



かっざる



くたざる